



あさぎり町

議会 会だより

～“まち”の動きがよく分かる!～

No.61
R元.8.1 発行

通年議会

第1・2・3回会議

一般会計補正予算	2P
尾鷹一範町長の所信表明	4P
100条調査特別委員会設置	5P
一般質問に15人が登壇	6～20P
常任委員会及び 一部事務組合報告	21～23P

あさぎり町議会

検索



【総務課】

- 救急救助資材
購入事業

412万円

H30年の台風で発生した須恵・深田地区の風倒木被害を受け、今後消防団が早急に対応できるよう各部に1台（計36台）のチェーンソーを配備します。

【高齢福祉課】

- 介護保険料低所得者
軽減負担金事業

1,183万円

H27年から低所得者の保険料軽減強化が図られています。10月からの消費税10%の引き上げに伴い、介護保険料の改正を実施します。

【建設課】

- 道路改良事業

7,056万円

道路幅員の狭小箇所について改良を行います。道路3路線（川瀬中島線・市口築串線・江島田頭川線）用地補償6路線（薬師堂線・須恵深田線・天神27号線・川瀬中島線・市口築串線・吉井下道線）

【農林振興課】

- 町有林造林事業

1億3,226万円

人工造林、下刈り、利用間伐、台風被害木整理、枝打ち、鳥獣害防止施設設置を計画的に行います。

【建設課】

- 町道維持補修事業

5,000万円

橋梁架け替え工事1橋（環状線1号線）維持補修工事3路線（別府線・免田百太郎線・浜川線）設計委託（免田百太郎線・皆越線）

【建設課】

- 町営住宅長寿命化
改修事業

8,300万円

新堀之内団地7戸の外壁や屋根補修、二子団地1棟18戸の改修設計委託。

【商工観光課】

- 商工業振興
補助金事業

1,000万円

町内の法人及び個人事業主が対象。機械・設備導入及び更新、販路開拓のための取り組みに補助金を交付します。

【商工観光課】

- ビハ公園管理棟
等改修事業

2,000万円

老朽化による管理棟の手すり撤去、新設、トイレの洋式化、蛍光灯のLED化を行います。

【商工観光課】

- 商店街街路灯
整備測量設計事業

700万円

30年以上経過し老朽化した街路灯に使用されている水銀灯の製造が2020年に終了となることや年間電気料160万円の支払いなどを考慮し、国道219号線の120基についてLED電球に設置替えします。

【上下水道課】

- 水道整備事業

1,785万円

八幡久鹿線ほか配水管布設替え測量設計1770メートル（メートルあたり10086円）

【教育課】

- 社会体育施設
整備・運営事業

2,072万円

スポーツ環境の向上と効果的な維持管理を図るため、深田高山総合運動公園改修に伴う測量及び実施設計を委託します。

第1回会議

一般会計補正予算（第一号）

歳入歳出それぞれ2千2百万円を追加し

総額 96億7,574万2千円

平成最後の会議が4月25日に開会。

4月の町議会補欠選挙で当選した岩本恭典議員の議席指定の後、平成31年度一般会計補正予算・防災ラジオ整備工事請負契約他3議案を原案どおり可決した。

- 旧岡原温泉の改修設計費2千2百万円
- 防災ラジオ整備工事費2億7千6百26万円（送信局1局、配信局3局、個別受信機6千4百台、契約の相手は福岡市、電気興業㈱九州支店）

第2回会議

一般会計補正予算（第二号）

歳入歳出それぞれ3億6千164万3千円を追加し

総額 100億3,738万5千円

尾鷹一範町長誕生後初めての会議が6月7日に開会。会期は、14日までの8日間。令和元年度一般会計補正予算や特別会計補正予算、条例・規約の一部改正（消費税増税に伴うもの）5件と任期満了に伴う教育委員の選任同意、選挙管理委員会委員及び補充員の選挙、報告1件、発議2件、議会広報調査特別委員の選任、一般質問には、15名が登場し町政全般にわたり尾鷹一範町長の考えを質した。

第3回会議

一般会計補正予算（第三号）

歳入歳出それぞれ6百万円を追加し

総額 100億4,338万5千円

7月16日に開会。

令和元年度一般会計補正予算、業務用パソコンの買入れについて、監査委員の選任同意についての3議案を原案どおり可決した。

- 免田小学校保健室空調機更新 150万円
- 皆越線他測量設計委託料 200万円
- 皆越線災害復旧工事費（追加）250万円

令和元年度第2回会議表決（抜粋）

議案	氏名	岩本	市岡	難波	加賀山	橋本	久保	小出	森岡	豊永	永井	皆越	小見田	奥田	溝口	久保田
議案第9号 令和元年度あさぎり町一般会計補正予算（第2号）について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第2号 町有地払下げ及び補助金支出の調査に関する決議		○	×	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	×

尾鷹一範町長の所信表明

(抜粋)



第2回議会では、今春の町長選挙で初当選した尾鷹一範町長が所信表明を行った。今回の一般質問では多くの議員が、その内容について質している (P6、P20)

食と農と福で観光事業と6次産業化

- 1 地域の特性を生かした食と農と福の交流フォーラムを開催。
- 2 人気メニューを商品化して6次産業化に取り組む。
- 3 点を線で結び町内全域で観光事業やおもてなし事業を推進。

農業の取り組み

- 1 事業存続か廃業希望者の意向を聞き伴走型で支援をする。
- 2 安定的な収入を約束してくれる販売先の確保。
- 3 就農応援事業の新たな取り組み。
- 4 外国人や障がい者の就業支援を促進し、農業等の労働者確保に努める。
- 5 リーダー育成のための新たな支援制度を検討。

ふれあい福祉センター改修事業

- 1 福祉の拠点施設として整備し利用者が楽しんで過ごせる空間創造の具現化を図る。
- 2 食と農の交流フォーラムのようなイベントを計画し、薬膳料理で生活習慣病予防や改善を図る。

子育て支援について

- 1 子ども医療費の償還払いを現物給付に見直すことについては、コンビニ受診に繋がらないように周知し関係機関と協議していく。
- 2 給食費の補助率アップと学童保育の充実にも努める。

健全な財政運営について

上下水道の改修事業費や医療費・介護費の増加が見込まれることから、企業の財務諸表に類する資料に照し合せ町の経営状況を把握し対応する。

生活要支援者の救済

学校や職場さらに社会に適応困難な人々、高齢者・生活困難者等の社会的弱者に不安のない生活を送っていただける町づくりを行う。

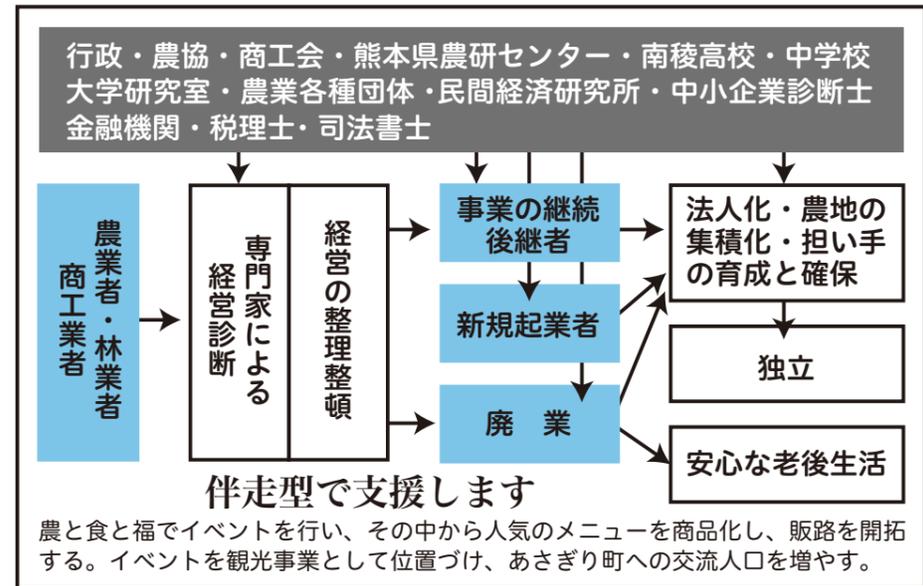
事業推進室の設置

各事業を推進するために、事業推進室を設置する。

農業・林業・商工業のこれからの取り組みは

「あさぎり町産業活性化プラン」の作成を行う。活性化プランが完成したら国や県に説明を行い評価が出れば国や県の支援を受けて町の産業活性化に取り組む。

あさぎり町産業活性化プラン



農と食と福でイベントを行い、その中から人気のメニューを商品化し、販路を開拓する。イベントを観光事業として位置づけ、あさぎり町への交流人口を増やす。

8対7で可決!!

100条調査特別委員会設置

百条委員会とは…

地方自治体が議決により設置する特別委員会の一つ。名称は「地方自治法第100条」に基づく。百条委員会は、地方公共団体の事務に関する調査を行い、関係者への聞き取りや記録の提出を請求できる。拒否した者には罰則が科せられる。通常の質疑応答や調査などでは事実関係が判明しない場合に設置される。

小見田和行議員他1名から提出され、趣旨説明があった。平成30年度食品加工会社の新築工事に係る町有地の払い下げ及び補助金の支出、並びに令和元年度までの幼稚園新築工事における町からの補助金支出に対して、それぞれの事業にあさぎり町議会議員が介入したのではないかと世論があり、政治問題化している。このことはあさぎり町政治倫理条例及びあさぎり町議会基本条例に深く関連することから特別委員会を設置し、疑惑を解明し町政及び議会に対する町民の信頼を回復する必要がある。

町有地払い下げ及び補助金支出の調査に関する決議

発議第2号

反対討論

加賀山議員
怪文書の作成に議員が介入しているとの疑念もあり、多方面からの意見も考えるべき。執行部に余分なストレスがかかることを心配する。

永井議員
怪文書自体が議会で正式に討議するものではない。よって事実解明するならば、地方自治法98条第1項に基づき所管常任委員会の事務検査でやるのが筋である。

小出議員
払い下げ価格や補助金の支出に関して担当委員会では問題なかった。食品会社が夢と希望を持って操業にあたる時期に、この決議はおかしい。

賛成討論

久保田議員
告発文の情報源は議会内部を知りえた人でないと出てこない。怪文書で特別委員会を作ることには認められない。100条委員会の調査にも限界があり、町民の幸せ、町の発展を願うならば冷静な判断をしなくてはならないわけでは感情だけでやるべきではない。

市岡議員
フィクション、作り話、特別な話をできた怪文書で特別委員会を立ち上げていいのかわからない。今後の町長の町政を支える議会が、それ为本にいいのかわからない。

森岡議員
町議会には信頼を失った状態ではない。あさぎり町議会基本条例、あさぎり町政治倫理条例にも抵触していない。議選監査委員

として毎月チェックしており、瑕疵はない。

豊永議員
議員は町民の代弁者である。少数意見にも耳を傾け、開かれた議会を目指すため特別委員会を設置し、あさぎり町政治倫理条例やあさぎり町議会基本条例を重視し、調査をしていくことも大切だ。

溝口議員
議員が怪文書の作成に関わっているなら根拠を示すべき。今回の文章は怪文書ではなく告発文だと受け止める。内容は議会でしっかり調査しなければならぬ重要な事項である。議員に掛けられた疑惑を解明し町民の信頼を回復することは議会の役割だ。

一般質問 15人が登壇

議員が町の執行部に対してさまざまな角度から町政について質問します。

※一般質問の文章については、質問者の責任においてそのまま記載とします。



こみた かずゆき 議員
小見田 和行



みぞくち みねお 議員
溝口 峰男

皆越を魅力ある地域にするための整備計画を



春は見応えのある石楠花公園(皆越)

問 あさぎり町は、各種振興法によって、中山間・過疎地域は全域、山村振興は旧上村、特定農山村も旧上村が指定されている。辺地指定は皆越・平山・阿蘇地区である。それぞれの対象事業は多岐に亘り制度によって財政措置が違ってくる。合併特例債、過疎債より有利な辺

地債を活用して、取り残されている辺地対策を行うべきではないか。

町長 辺地総合整備計画は24年度以降について作成されていない。地域間の格差解消という点も含め新たな辺地総合整備計画の作成を検討する。

問 清願寺ダムからの県道終点工事が終了した後、太平橋・芋の八重橋の架け替えが終われば順次道路等の整備をしていくとの事であったが手付かずの状態である。耕作放棄地

対策や振興作物の導入、旧皆越分校施設の整備を含め皆越地区を夢ある地域、魅力ある地域づくりにするための辺地総合整備計画を策定していただきたい。

町長 町では、国の強化地域計画を策定す

公民分館立て替えを早急に

問 防災センター・議場等の拠点施設の場所が示されたが、住民の一番近い避難場所は公民分館である。次年度5か所の行政区が建て替えを希望しているが、次年度中には2か所しか予定されていない。老朽化や耐震化もできていない公民分館建て替えには基準を設け早急に対応すべきではないか。

町長 財政の裏付けを増やせるようにしていきたい。

問 小学校区に1か所の非常用備蓄倉庫の設置計画は。

町長 次年度から計画的に進めていく。



防災センター等の拠点建設場所が示された福祉センター

将来に向けた農業の取組みは

問 農業現場における担い手の高齢化に向け、農業支援センター、集落営農組織の法人化等、様々な農政が展開されてきたが、客観的意見と今後の政策は。

ての知識を持ってアドバイスできることは行いたい。法人として方向性を確立するには、優れたリーダーに権限を委ねる体制作りが必要だと思う。農業現場での高齢化、担い手不足は緊急な課題と捉え、

スピード感を持って取り組みたい。補助、支援についても国は一部の担い手に焦点を当てがちだが、私は今まで農業を支えた人たちを守ってくれる政策も訴えたい。今後、高齢者の離農も予想されるが、今まで培われた優れた技術も資産として継承されるべきと思う。

町長 農業支援センターは、非常に良い取り組みと思う。集落営農組織の法人化については、まだ私自身知識不足だが法人事業者とし

再生あさぎり農業



ふれあい福祉センター「温華乃遥温泉」の改修事業はどうなる

問 実施計画予算は可決済みだが、仕様の見直し、スケジュールの変更はあるのか。

町長 従来からの福祉の拠点としての改修には、基本的に賛成だが、あさぎり町の安全、安心な食材で食を通じて

防災センターは必要か



問 福祉センター「本庁舎の隣の建物」の解体後に3階に防災センターの構想があるが、公共施設等総合管理計画との整合性をどう取るのか。

町長 人口減少の中で、これ以上新しい建物を建てる事はいかなるものかとの認識は充分ある。しかし防災施設の最低限の整備は必要と思う。国も国土強靱化地域計画を策定し、町にとって有利な事業の選択肢もあろうから、検討を加え、議会とも議論を重ねていきたい。

「交流人口」を増やし、それをビジネスにつなげる施設になればと考えている。今後、私の考えを伝える意見交換会を住民の皆様と行い、その意見を活かした実施設計に進めたい。これ以上時間をかけるつもりは無い。



くぼた ひさお 久保田 久男 議員

13	10	7	4	1
14	11	8	5	2
15	12	9	6	3

町長の政治姿勢及び所信表明について

問 後援会会報に「低迷する町から成長する町へあさぎり町が生まれ変わります」とのキャッチ

町長 後味がさっぱりした選挙戦であったら良かったなというのが私の考えだ。

問 選挙の度に願うのは、しこりの残らないクリーンな選挙であってほしい。これは、あさぎり全町民の願いだと思う。しかし、その願いは裏切られ、政策論争ではなく、怪文書が出回る選挙戦になってしまったことは、大変残念に思う。まず、今回の選挙を総括しての感想は。

問 後援会会報に「低迷する町から成長する町へあさぎり町が生まれ変わります」とのキャッチ

町長 これは捉えようでは、前町の全面否定にならないか。我々議会は、役場は何していたんだと。

問 次は怪文書が出回る選挙になったことについて。



問 仮に関係ないところから出たとして、そのようなものを何故選挙運動に利用したのか。

町長 私は選挙運動に使った覚えはないが、支援者の中には個人的にそういう思いの方があろうが、事務所内ですういう選挙運動をやるとうという会議をしたことはない。

問 途中ですういう運動はしないように徹底されなかったのか。

問 今回の選挙で区長・民生委員の職にあられる方が堂々と運動に関わっておられたことについて、担当課としてどのような指導

町長 私が一切関知してないことに、私は謝罪する考えはない。

問 今回の選挙、いろいろな方々に迷惑をかけたと言っている。



問 区長という職務上の地位にあるために、選挙運動において相手方が地位利用と見られる行為も多々あることから、選挙における実際の行動、言動には注意するよう説明を行っている。

をされたのか。

産直住宅の必要性は



はしもと まこと 橋本 誠 議員



町産材(町内製材所加工)を使用した須恵中央ハイツ

問 地元の豊富な森林資源を活用し、地元の工務店で建築する産直住宅の取り組みは。

町長 須恵の町営住宅に地元木材を製材所で加工し使用した経過はある。製材業は少なくなり事業承継の問題がある。産直住宅は裾野の広い部門に効果がある。

問 町内で新築増築等に、地元以外の産材やハウスメーカー等がかかわる割合は。

町長 個人住宅のリフォーム、新築の助成をしている

問 地元企業が第一条件になっている。地元産材を使う使わないの統計はとっていない。

町長 地元産材・工務店にお金が落ちるシステムが必

問 要だ。補助金を出す場合の問題は。

町長 町の木材は非常に良質な市場にでると地域外の人達が買いに来る。買い手が増えると値段も上がり、その為

町外に流失する事が多い。両親と若い人達が別居することで空き家が増える。解体費用の問題。2世帯住宅を産直住宅で造ると補助金が出る仕組みづくりを考えたい。

ヘルシーランド入浴(定期券)の改定は

問 ヘルシーランド改修後入浴料値上げ、指定管理設定など住民意見に対する改善策は。

町長 新しい指定管理の集約報告は定期的に掲示している。利用者から指摘があった駐車場の照明は改善しており、正面玄関前については今後改善を行っていく。

問 入館者の増に繋がる為に利用料の減額は。

町長 ヘルシーランド条例の利用料金制では、町長の事前承認で条例に定めた利用料金を上回らない範囲で指定管理者が設定できる。

問 が増と聞く。13,800円にする事が可能か。

町長 町長の承認で可能。引続き指定管理者と定期券等の協議したい。

問 3ヶ月定期券(16,800円)が高い為に多良木、湯楽里の利用者

町長 議会がヘルシーランド改修料金値上げ・指定管理を議決された。できる範囲で改善努力。知恵を出して料金に値するサービス提供を指定管理者と共に取り組みたい。



温泉に入ってくつろぐ皆さん



みなこし 皆越 てる子 議員

生活福祉課長 誘導看板・表示看板・立て

問 平成30年7月、ヘルシーランドがリニューアルオープンし、やがて1年が経とうとしている状況の中、本年4月より3年の指定管理で管理運営を担い、企業として一生懸命運営に取り組んでおられるところですが、町として看板の取り付けを検討するということがあったのは、

現状のヘルシーランドは

看板は塗り替え済みだが、国道沿い三差路の右折看板については複合的な看板のため保留中である。

問 おかどめ幸福ランドのPRは必要だと思うが。

生活福祉課長 幸福駅からシボルロード・谷水薬師と線がつなぐ途中にヘルシーランドもあるので、関係課と協議させて頂きたい。

問 赤いボールの駐車禁止の件は。

生活福祉課長 正面玄関で景観も損なうので、プラントも考えてみたが進入禁止



もりおか つとむ 森岡 勉 議員

問 防災拠点施設について、執行部共々、いつ起こるかかわからない自然災害を最小限に食い止め、住民の生命・身体・財産を守る責任がある。町長の所信では、福祉センターを解体し、新たに三

防災拠点施設への取組みは



あさぎり町防災基本条例施行後初めての防災会議

階建て施設の建設について議会に検討を申し入れた。これらの時期・規模・建設予算等についての考えを示してほしい。

町長 議会において、防災センターと議事堂の移転を特別委員会検討がなされていると聞いています。福祉センターが築三十八年を経過しており、又、町の重要なポジションの三課、一局が入っており、機能が経済の中枢の観点から、国土強靱化地域計画の活用を早急に取組みたい。

問 議会の特別委員会での調査結果が出されたとき、又、前町長との引き継ぎを踏まえた防災センターへの取組みは。



検討中の駐車禁止標示

のゾーン・ゼブラゾーン目立つ色で塗るということも内部で検討している。

問 特別委員会で議論し、決定した回数券・大広間の利用料金ですが、委託料との整合性もあるが、再検討をお願いしたい。

町長 利用者の方から改善の跡が見えるよう努力していきたい。

子牛導入補助金について



出荷間近の子牛

問 町民の声より、子牛導入補助金を上げてほしいというのだが、家畜の現状と補助金について。

農林振興課長 家畜の導入・保留牛の事業として、あさぎり町では1頭10万円の導入事業補助金を交付。保留の事業として5万円。上限15万円での範囲内で農家の判断により事業実施をされている。

町長 町の経済社会の機能を喪失せず、投資は十分に見極め、特別委員会の意見も十分配慮し、産業の振興、活性化を含めた防災センターを考えている。

町長 それは大切である。町の財政運営の現状をしっかりと把握し、適材適所に人材を配置しながら、力を合わせやっていきたい。



問 こども医療費の助成は、中学三年生まで拡大し、併せて償還払い制度を平成二十六年から実施しているなか、制度の変更を現物払制度に変更したい方針の根拠は。現在、町財政の予算の35%を民生費が占める。歳出の抑制を図りながら現制度で誰にも公平に行政サービスが受けられるべきである。

子育て支援制度の今後について



窓口申請状況

町長 子ども世代の中にも格差が広がっている感じがし、現実保護者の声が、現物支給にしてほしい要望があり、コンビニ受診により医療機関や医療費の高騰にならない様、保護者やPTAと話ししたり医療機関と協議してから移行して行きたい。

その他の質問 事業推進室の設置について

問 他の町村において尋ねてみると、畜産農家の高齢化・廃業といった背景の中、村として畜産農家への補助金の検討。ある町では見直して、補助金を下げるということを聞いています。あさぎり町の見直しは。

農林振興課長 補助金の枠が毎年1,000万円ほどということになっていっているので、

その予算の範囲内で役員の考え方で要項を改正していくことになる。

問 廃業された畜舎の有効利用はどのように考えているか。

農林振興課長 人・牛・仕事というのがあるが、現在のところ球磨人吉管内で事業をしている人はいない状況。

事業推進室の設置で職員は増えるのか

町長 職員増はしない。定年延長については、国の方向性を見ながら国の指示の下で進めていく。

問 事業推進室の設置で職員の増加、定年延長については。



こいで たかあき 議員
小出 高明 議員

一般質問

問 あさぎり町活性化プラン作成を行うとあるが、この目的は。

町長 一つは、今、法人化が進んでいる。その法人化をスムーズにする手伝いもある。もう一つは、人・農地プランのアンケート調査で、800の農家のうち200の農家が廃業を望んでいるという事で、その際に専門家の手伝いがあれば、応援支援する事になるのでは。

問 私としては、二者択一ではなく、今、農業をやっている人の底上げが必要ではないかと思う。例えば、価格保証出来る作物を作り、いかに収量を上げ所得につなげるか。前町長は、旧深田中学校校舎を解体し、農産物の加工施設を、という考えがあったわけですが、引継事項の中で、継続して

所信表明の「農業林業商工業の
これからの取り組み」について



畜産農家の中で問題となっているオガ粉不足

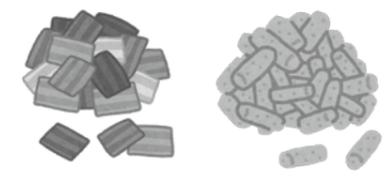
進める、という事で間違いないか。



旧深田中学校

問 次に今、畜産農家の中で問題になっているのは、林業の所でも言われたが、畜産に必要なオガ粉が不足している事。これは、製材所の廃業が一因となっているとの事だが、私は、バイオマス発電の影響がかなり出てきていると思う。木質チップとか木質ペレット等が必要であり、奪い合いの状態とも聞く。その事についてお尋ねしたい。

町長 私も、存続か廃業かだけでなく、農家さんの価格を安定させる収穫量を上げていく取り組みもしていきたいし、深田中跡地活用も、その方向で進んでいきたい。



町長 あさぎり町には誘致企業で、大型製材所が来て、大量のオガ粉を製造しているが、ほとんどが町外に出て行っている。交渉次第で町の方に回せる様に出来ないものか考えている。

町長 町有林では多くの間伐材とか風倒木があり、そのまましておく豪雨災害の時に流木となり、被害を大きくする要因にもなる。そういった廃材を利用したオガ粉製造に取り組み、畜産農家に安定供給する考えはないか。

自治大学校で人を育てる

問 組織を最大限活性化するため、プロの行政マンを育てる必要がある。

総務課長 職員の人材育成基本方針を定め、研修計画を進めている。

町長 職員には、なくてはならない人材になってほしい。熱意がないと、費用を使っても効果が出ないので、自覚に応じて能力を伸ばしたい。私が先頭に立って事業を推進し、決断と行動、説明責任を果たし、職員の模範となることが大切だ。

問 町民や議員からの要望や苦情も多岐にわたって複雑化している。法令、条例を熟知したマネジメント能力にたけた事務方トップの必要性を感じる。自治大学校にはやる気のある行政マンが集う。そのような環境の中で、スキルアップをし、今の仕事に生かせるなら大学校での研修に参加させるべきでは。



くぼ なおと 議員
久保 尚人 議員

町長 予算面を考慮し、派遣枠を設けて実現していきたい。

「自治大学校
について」

総務省が設置している国の機関で、地方公務員の資質を向上し、勤務能力の発揮及び増進を図り、地方公共団体の行政の民主的かつ能率的な運営を期するため、地方公務員に対する行動の研修を行う機関として、昭和28年に設立された。

研修の内容は、地方公共団体の幹部職員として必要となる政策形成能力及び行政経営能力の習得を目指す一般研修課程、特定の行政分野に必要とされる高度な知識、実務処理能力の充実を目指す専門研修課程に大別されている。

球磨川幸福マラソン大会の目的と費用対効果の検証を

人吉球磨管内市民マラソン比較表

項目	球磨川幸福マラソン (10月)	花より団子マラソン (3月)	ひとよし温泉春風マラソン (2月) ※割合は件数割
参加者数 (エントリー件数)	1,002 (791)	768 (768)	5,412 (4,720)
開催市町村民	241 (24.1%)	70 (9.1%)	692 (14.7%)
人吉球磨	142 (14.2%)	160 (20.8%)	525 (11.1%)
県内	476 (47.5%)	328 (42.7%)	1,662 (35.2%)
県外	143 (14.3%)	210 (27.3%)	1,841 (39.0%)
決算額(支出)	7,689,414	3,310,000	20,637,919
参加料	2,810,400	1,900,000	14,907,500
町補助金	4,799,906	1,200,000	4,275,000
運営委託料	2,455,472	1,450,000	7,852,338
※委託業務内容	司会業務、警備業務、自備業務、大会運営業務、こみ収業務		記録集計作業、警備業務、会場設営、電気設備工事、音響委託
種目	2km・5km・10km・ハーフ	3km・5km・ダム湖一周(13.4km)	2km・1/10マラソン・10km・ハーフ
大会当日スタッフ総数	668	100	767
職員	131	60	220
備考	水上村		大会前日スタッフ数: 288 ※職員数: 116

問 スタッフの確保や準備作業に多くの時間を費やすものとなっている。事業目的があいまいで、費用対効果を明確にしなければ真の成果が図れない。財政規模が縮小する時代の各ソフト事業の取捨選択のために、

教育課長 次回の大会は、運営の現状及び課題等を検証する機会ととらえている。

町長 会長として準備の段階から一緒に仕事をしたい。

客観的な評価を残しておくことも必要だ。

でしっかりと検証して審議していきたい。

問 一度は執行部でやめたいと意見が出た大会を議員総意で継続させた経緯もあり、執行部と議会で盛り上げたかと考えるが、費用対効果の面では残念ながら良い効果が出たとは言いがたい。収入に関する提案として、大会エントリー権を返礼品にした「ふるさと納税」を使って参加してもらったかどうか。返礼品と諸経費を差し引いた額が増額となり大会運営費に回すことも可能なのでは。

町長 (マラソン大会に限らず)民間活力を使って、熱い人たちを集めて事業の推進をしていきたい。

一般質問



おくだ きみと 議員
奥田 公人

問 ふれあい福祉センターは、基本理念として「食・趣味・娯楽等の活動を通じて活力を得ることができるところを設け、健康づくり、子育て支援を行います。住民が集い町内外の人の交流により活力が生まれ、活力にあふれる福祉活動拠点を創造します。」と、うたっているが、

町長 あさぎり町には、健康と幸せづくりという大きなテーマがある。やはり健康の1番のものは食である。あさぎり町の大地で太陽を浴びて、きれいな水で育った野菜は、まさしく私は体の健康をつくる薬膳料理だと考える。せっかくであるならば料理をつくるようなキッチンも兼ね備えたら活用が広がるのではないかと考える。

問 町長はボルダリングをイベントスペースに移設したいと言われたが、イベントスペースは農産物の直売や土産物の販売施設に希望されている方が多い。食堂の隣で騒がしい状況は余り適当でないかと考えるが。

町長 私はカルチャースペースとキッズスペースを両方もカルチャースペースとしたらどうかと考える。

問 改修計画の中では床面をフラットにするため、イトスペースにあるステージも撤去されることになっているが、イベントを行ったり、にぎわいを創設するためには是非ステージが必要とあってくるかと考えるが。

町長 ステージがあるというんなら、使い道があると思うので意見交換会で協議して進めたい。

問 今後の計画はどうなるか。

町長 リニューアル工事の施工の予定については、まだ不明な部分が多い。

ふれあい福祉センター改修事業は



《交流ホール》



改修前のふれあい福祉センター

設計の段階では、福祉活動拠点施設としての目的を見出すのに非常に厳しい問題が山積している。町長の具体的な考えを問う。

問 高齢者が利用出来るようなトレーニングルームが必要と思う。トレーニング機器や機材も、できることなら導入していただければと考えるが。

町長 トレーニングルームは新潟県の見附市でそういうことをやっている。承認があれば見学に行くことになっている。あさぎり町で可能かどうか検証が必要だと思う。できるならば高齢者のスポーツ等の為の器具も設置したい。

子育ては学びのスタート



ブックスタート事業の継続を



かがやま みつこ 議員
加賀山 瑞津子

問 生活の中の、一番身近で最初の学びは子育てだと考えるが。

町長 地域で育てていく事で、子供が育ち親も学んでいく。子供たちの部活やクラスの活動を通して親同士が知り合い、人のつながりになって大きな財産になっていく。

町長 ブックスタート事業はお父さん、お母さんが子供に読み聞かせてやるそのぬくもり大きな働きがあると思う。親子のふれあいは非常に大事な事。担当と一緒に検討していきたい。

問 赤ちゃんの10ヶ月健診の時にブックスタート事業(絵本の配付)を行っているが、この本はさまざまな人との信頼関係を深めるためのツールでもあると思う。一回だけでなく2才3才小中学校の入学時などにも配布できないか。



ふるまの味の味を伝える「あさぎり食堂」の設置を



乳幼児からの歯の健康づくりを

問 80才で20本の歯、8020運動は幼少期からの継続の成果。金銭的サポートを含めた体制づくりについて、予防のフッ化物洗口や口腔ケアの指導の併せて治療・受診のための交通手段等の取り組みも必要では。

町長 償還払いから現物支給を考えたひとつの理由が歯の治療のこと。健康な歯はとても大切だ。今後色々検討していく。

問 小さい時に食べたものは、大きくなってからの「ふるまの味」となる。食べることに意識することについて意識することは本当に大事。元気な歯でしっかり食べ、健康で長生きする。今後あさぎり町では、子供食堂ではなく、子供と高齢者が共に集う「あさぎり食堂」の設置を提案する。

町長 食べる物を育てるところから始めて、料理する民間活力を使って地域を活性化し、事業を通して若い人が育っていく。子供たちの素晴らしい閃きを活用し郷土愛を育んでいきたい。

問 町長は林業のスペシャリスト。目の前の人材育成も大切だし、将来の大黒柱となりうる木を植えて育てることも大事。私は子育てがその第一歩だと思う。



ながい えいじ 永井 英治 議員



いわもと やすのり 岩本 恭典 議員

旧東庁舎を運動施設に



現在の旧東庁舎



町長 あさぎり町は健康に対する意識が高い地域だと確信している。社会福祉協議会の勉強会

問 介護保険の基準保険料は、平成18年、年額4万5,720円、現在7万8,000円、令和7年には9万8,400円と増え続けることが予想されるが、負担軽減のための新たな取り組みがあるか。



あさぎり町駅前の風景

町長 国土強靱化地域計画中で、自主防災組織団体の研修、会議の場、災害時の避難場所、等にも利用できる施設と併せ検討していく。

療費削減」につながると思うが。

デマンド交通を有効な使い方に

問 最近、毎日の交通事故のニュースが流れている。あさぎり町は、既に交通弱者のための外出支援「デマンドバス交通」事業の予算を計上し、特別委員会ですべての検討中である。運動施設で体力を鍛え、町の温泉に入って体を癒し、町

長がふれあい福祉センターで考えている薬膳料理を食べて体内を鍛え、学校の空き施設を使って脳を鍛える。このような流れを循環させ「デマンド交通があつてよかった」と思えるような「利用できる場所」を増やす事も必要だと思うが。

町長 交通機関に関する。町長としての立場で今後の駅前開発の方性について。

その他の質問

取水量減少の水源への対応は

問 先日の建設経済常任委員会において、岡原第一浄水場の水量が減少しているとの報告があつたが、毎年のようにどこかの水源の取水量の減少が問題となっている。岡原地区においては、数年前竹野地区で水源の試掘がなされているが、その後どうなっているのか。

上下水道課長 平成23年度に免田地区を除く4地区で新規水源の試掘を行っている。須恵地区と上地区の試掘箇所では水量不足の結果であつたが、

岡原竹野地区・深田明甘地区においては水量・水質共に良好な水源として活用が期待できる結果であつた。しかし、試掘場所がいずれも私有地

だつたため、将来において活用する際は、隣接する適切な場所を選ぶ事になると考えているが、具体的な年度等は未定である。

問 それを生かすことが難しいならば、緊急避難措置として免田地区の水道を岡原地区に生かすことはできないのか。

上下水道課長 現況では、各地区の末端の水道管の口径の違い等の問題がある。また、免田地区と岡原地区では高低差もある。しかし、上地区の新川北浄水場が岡原地区と連結しているため、水量不足の時は水を送れるようにしている。



岡原第一浄水場

空き教室を高齢者の憩いの場に

問 旧免田中学校に二つの空き教室があるが、仕事を定年退職した方々の経験・技術・資格を活かして、高齢者の方が毎日交流できるワークシヨップ、あるいは、娯楽の場（囲碁・将棋・麻雀等）として使えないか。

地区を超えた仲間同士のコミュニケーションが豊かになり、脳が活性化して認知症予防に期待できると思うが。

町長 有効な活用方法だと思つた。法だと思つた。で、町民からの要望があれば取り組んでいく。

防災について

問 将来、人口減少等に伴い給水量が減少すれば、単位コストが上がり、水道料金に跳ね返る事が懸念されるので、値上げにならないよう考えてほしいが。

町長 大きな水源が基本的には、水道料金の値上げという町民の皆さんの生活の負担を増やさないと努力しなければならないと考える。

問 町長は所信表明の中で、防災施設は早急に取り組む事案としているが、時期については。

計画を集中的に実施する」とある。合併特例債も起債の期限が令和5年となるので、早急にやらなければいけないと考えるが。

町長 国が進めている「国土強靱化計画」でどのような支援が受けられるか確認しながらタイムスケジュールを作っていく。

問 「政府は、防災減災国土強靱化の為、3か年緊急



町長 そういうことを頭にに入れて取り組んでいく。



難波 文美 議員

問 令和元年に誕生した尾鷹町政が、変化の激しい社会情勢に対応できる強い町づくりに責任を持って取り組まれるよう期待する。疎水百選や世界かんがい施設遺産に登録されている幸野溝と百太郎溝は昨年の豪雨により氾濫や冠水被害を引き起こした。観光資源と農業用水路両面においての課題と今後の対策は。

国土強靱化と地方創世を見据えた灌がい施設の対策は

2019年度の畦畔率の取り扱いは



水田畦畔率3%から4%へ



豊永 喜一 議員

問 農業を取り巻く情勢は、TPPの妥結、今後の日米貿易協定交渉による農畜産物の輸入増大等での価格下落。国内では昨年より実施されている米生産調整の廃止による需要と供給のアンバランス化に伴う生産地

間の競争激化。近年の自然災害の脅威等、又、少子高齢化による担い手不足など様々な課題が山積している。その中において、あさぎり町においては、町村合併前より転作計画書は畦畔率は3%であったが、4月の集落営農生産組合の総会等での説明では、会計検査院の指摘で、農政局との協議で4%で交渉する旨の説明であったが、この事は、農業所得を大きく揺るがす重要な事だと思われる。協議の経緯と今後の対策を問う。



農林振興課長 今回4%の畦畔率になった件については、平成26年1月に会計検査を受けて、畦畔率の根拠資料が残っていない事が判明した。農地の確認には実測あるいは、国の統計部が公表した平均畦畔率を参考とした推算平均畦畔率か交付対象水田を抽出して実測して求めた平均畦畔率を活用すると実施要綱に記載され

ている。そうした中で、現場に出向き水田を抽出して実測測量をしている。47筆の中から実測調査が出来たのが409筆となっていて、畦畔率を4%として算定した。

問 農業所得の影響については。

農林振興課長 平成30年度の水田営農計画書の集計では総計で

問 畦畔率について農業所得が約1,500万円ほど低下するが、これに対して町長の考えは。

町長 畦畔率が農家の所得に大きく左右するものでありと確認した。農家の所得低下につながるような取り組みをしていきたい。



問 昨年8月に県南広域本部がストックマネジメント事業で1億1600万の事業費を組んでいるがその内容と経過は。

町長 観光施設としてはあまり手を加えず専門家の意見を聞き、その歴史や素晴らしい点を情報発信できる面を整備していく。防災の面では自主防災組織を中心に危険箇所を把握して、万が一の手当ができるよう準備や訓練を行う。

問 治水機能向上のために、阿蘇市の手野遊水池が暫定運用を始めた。町の放水路や遊水池の状況は。

建設課長 国交省が中心となり、河川のあり方について協議しており、大雨時に水位を下げる放水路を設定してあるが遊水池はない。

建設課長 平成21年度と22年度に百太郎溝の機能診断と改修のランク付けをしており緊急度に応じて改修工事を行っている。下流側左岸の石積み改修を令和2年度で完了予定であるが令和3年度まで伸びる可能性もある。



《改修済み部分》



《未改修部分》

世界灌がい施設遺産に登録されている百太郎溝

される。河川沿いの道路や周辺整備は観光のためだけではなく町民の安心安全や利便性につながっていくのでは。

町長 二つの溝に沿った道路はガードレールの設置など路面整備の必要性を感じている。水害の面では早くあらゆる手立てをしなければならぬ。国土強靱化地域計画を立てていく中で、地域振興にもつながるよう優先順位をつけて整備していく。

問 改修の際、古く狭い路面に大型重機が搬入された事で崩落や大きなひび割れが起きたがその対応については。

建設課長 町内の舗装補修工事を予算付けして計画的に行っている。他の路線と比較しながら優先順位が高ければ早期の工事を進めていく。

問 国の通達で河川の激甚災害対策特別緊急事業があるが、地方創生と国土強靱化は車の両輪であり強靱化はコストではなく未来への投資であると認識

愛郷心を育む教育の取り組みについて

その他の質問



議会運営委員長 豊永 喜一

令和元年7月8日、グランメッセ熊本において早稲田大学マニフェスト研究所事務局長・熊本市政策参与 中村健氏を招いて「チーム議会のすすめ（議会に期待されていることとその責務）」と題して研修会が実施された。

- 1、時代の変化を知る
- 2、災害時の議会の役割
- 3、常任委員長・議会運営委員長の役割
- 4、全国事例
- 5、町村議会に期待されていることについて



中村健氏の熱いメッセージ

（研修を終えての感想）

平成11年J.R.四国社員を経て、27歳で徳島県川島町長に初当選、全国最年少の首長となった自分自身の経験をもとに講演された。

一人一人の力は微力である。しかし、無力ではない。あきらめず仲間をつくり、皆が力を合わせれば、大きな課題を乗り越えられる。議会は地域課題を解決し、地域の未来を創造する権限を有している。議会の視点が変れば、執行部が変わる。執行部が変われば地域が変わる等の講演に感銘を受けた。あさぎり町議会としても、議会活性化を進めるために学ぶべき事が多くあった。



※交通災害共済制度とは
事務組合に加入している市町村の住民が、交通事故により死亡や負傷した場合に、入院や通院を行った期間に応じ、交通災害見舞金を支給する事業。事故発生後1年以内の請求により審査し支給される。掛け金は全額市町村が負担している。



戸別受信機の貸与について
貸与に関する要項、申請書の提出、今後のスケジュールについて説明を受ける。委員会では、申請・配布の方法について再検討を求める。棄損・故障等の単価については概ね了承する。

消費税増税に伴う条例整備について
教育施設の使用料改定、主要事業について説明。

○5月23日（木）
熊本県市町村総合事務組合規約の一部変更について
県下38市町村で構成され、合志市が交通災害事務から脱退することから規約の一部を変更するもの。

総務文教常任委員会

常任委員会及び一部事務組合報告

消費税の増税について
今回自動車取得税が廃止になり、新たに環境性能割という新税が導入される。取得交付税も環境割交付税に変わり、今回の補正予算に計上される。

農業の取り組みにおける 今後の外国人研修生への対応は



技能習得に励む ベトナムからの研修生



町長 これまで外国の方と接して一番感じるのは、学習能力が高い方が多く、現在、町内に来られている方々も覚悟をもってきています。あさぎり町の産業活性、担い手不足を補うためこれから外国人研修生の労働力は重要となりお互いに



いとおか たかすみ 市岡 貴純 議員

問 今後増加するであろう外国人研修生に対応する為の町の具体的な課題、問題点、そして今後の取り組みは。

農林課長 農家へは数件の体系で取り組まれており、JAではアンケート調査を行い、

尊敬、尊重し合い能力を発揮し、安心・安全な環境を築いていける様取り組む。

町民課長 4月1日現在、町の外国人登録者数202名。一番多いのがベトナム国籍で男性22名、女

一部の農家と選果場で雇用の希望はあるが今後の動向を調べている。

問 総務省の掲げる多文化共生推進プランの検討は。また、今後、外国人研修生の受け入れ方、窓口づくり等のマニュアル化の整備

性110名。毎年増え続けている状況。

総務課長 現在、具体的に関する施策の策定は行っていないが、各省庁の施策の内容を踏まえ、今後あさぎり町の方針を考

え進めていく。が必要では。

子ども医療費の償還払いを 現物給付に見直すことは適正か

問 現物給付に見直し、医療費の抑制は可能か。

町長 やはり医療費は上がると思う。これまでの経緯があり、償還払いに戻った事は重々承知している。しかしながら聞こえてくるのは生活弱者の方々の声であり、年々増えていると感じている。取組み前に、保護者

や医療関係者との意見交換を行い、コンビニ受診等に繋がらないように理解を頂

問 現在の償還払いも、申請すると1円まで戻ってくる制度であり、手続きを改善し即日払い等も可能である。私も子を持つ親の人ではあるが、多くの町の子育て支援策

町長 十分な所得を得ることができない方や、ひとり親家庭も増えてきている中、子供が平等に医療を受けるチャンスのある場をつくってやりたい。

子ども医療費助成について
●償還払い（病院や薬局で一度料金を支払い、その後、町へ助成申請し後日振込み）
●現物給付（保護者が直接、病院や薬局へ料金を支払う必要がない）
経過 平成15年4月町村の合併時には就学前児童を対象に償還払いとしてスタートしています。その後、平成16年4月に一部現物給付を取り入れ、平成20年4月に助成対象を小学6年生まで拡大。子ども医療費助成額が年々増加していたため、平成26年4月すべて償還払いに変更し、中学生まで対象範囲拡大を行った。

○5月23日(木)
上下水道課

須恵、岡原地区水道の状況について。

熊本県水道事業基盤強化推進協議会における検討結果公表について。

農林振興課

主要事業について、消費税に係る条例改正について。

商工観光課

あさぎり町商工業振興補助金交付要綱について。

建設課

令和元年度予算編成に係る主要な事務業務説明・補正について。



農業用ドローン

計14案件についての説明・協議・審議を行なった。又、農業の担い手づくり支援交付金事業の中で、ドローン・オート田植機・トラクター用GPS導入計画があり、あさぎり町においても、ICTを活用したスマート農業がこれから、少しずつ広がっていきように感じたところである。



○6月4日(火)

令和元年第1回理事会が開催され平成30年度上球磨消防組合一般会計継続費繰越計算書の報告。新庁舎備品(弁器類)購入契約の締結。熊本県市町村総合事務組合共同処理する事務の変更及び規約の一部変更の2議案を全会一致で原案通り可決した。多良木町議(猪原・宇佐議員)及び水上村議(米本議員)が議員改選において選出され、副議長に宇佐議員(多良木町)が当選された。上球磨消防組合消防庁舎建設調査特別委員会委員長に橋本議員(あさぎり町)、副委員長に米本議員(水上村)が選出された。新庁舎現場で進捗状況70%との説明を受けた。



上球磨消防組合議会



上球磨消防組合(新庁舎現場の様子)

○3月27日(水)

平成31年第一回定例会が開催された。錦町議会議員の自主解散により「一般会計経費の負担の総額」「負担金条例の一部を改正する条例の制定」について採決が出来ない旨の説明があり議案が撤回された。

○5月30日(木)

第2回臨時会では、統一地方選挙後の初議会のために議長の選挙があり、豊永喜一議員(あさぎり町)、副議長には豊永貞夫議員(人吉市)。議会選出の監査委員に椎葉弘樹議員(湯前町)が選任された。3月の定例会で撤回された二議案については専決処分承認となった。



人吉球磨広域行政組合議会

○6月22日(土)

○3月29日(金)
ふれあい福祉センター改修計画及び施設計画について(生活福祉課・高齢福祉課)
①カルチャースペースについてはフラットな床とし、会議や健康づくり、趣味活動の多目的スペースとして活用する。
②イートスペースにあるステージについては撤去し、オープンスペースを確保する。
③生活支援ハウス部分の居室は、緊急時の一時避難措置施設として3部屋を確保する。
④駐車場については、農村公園を駐車場として拡張する。

委員会の意見として、①イートスペースに設置されているステージはできる事なら残してほしい。②ヘルシーランドのデイスアービスは継続されるのか。③設計業者選定においては慎重にしてほしい等の意見があった。



ふれあい福祉センター(岡原)

○5月22日(水)

生活福祉課・高齢福祉課・健康推進課・町民課から消費税増税に伴うそれぞれの条例改正の説明があった。

新人議員

岩本 恭典(55歳)

厚生常任委員会
広報特別委員会
免田地区大正町

教育委員再任

澤田 光徳(覚井)

選挙管理委員会委員

沖松 学(久鹿)

岡部 和平(松山)

福永 喜一(下里)

北川 一之(屯所)

選挙管理委員会補充員

甲斐 龍馬(植の里)

村山 幸典(麓)

城本 龍一(福留)

恒松 秀行(屯所)

代表監査委員

園田 孝幸(人吉市)

\\聞かせて\\

町民の声

町内の方々に寄稿していただきました

心を和ませるもの

あさぎり町に帰省して10年目、夫と小学生の子供、両親とにぎやかに生活しています。私は岡原小学校の木造の旧校舎に入学し鉄筋コンクリートの現校舎を卒業した世代ですが、先日小学校に行った際、子供たちも同じ教室で同じ風景を見て毎日過ごしていると思うとなんだか嬉しくなりました。また、お彼岸の宮原観音堂で床の傷を眺めていた子供に90代のお爺さんが「昔、子供のときコマ回してつけた傷ばい」と話すのを聞き、この空間をより身近に感じました。

変わらない空間で感じる「時を越えた共感」は心と和ませてくれます。古いものを壊し新しいものを創るばかりではなく「故郷らしいところ」を永く大切にできると良いと思っています。



岡原（熊野）

一柳 貴紅子さん

今、思うこと

元号が平成から令和に変わった今年、我が家では長女が生まれ、日々成長する姿を見るのがなによりの楽しみです。

そのような中で、あさぎり町では町独自の出産祝い金や、中学生までの一般的な医療費が無料になるなど、その取り組みは子育て世代の私達には有難い限りです。まあ、なるべく医療費を使わないで、病気やケガなく成長してくれるのがなによりです！

こうした財源を確保するのも容易ではないと思われませんが、あさぎり町にはぜひ今後もこうした政策を継続していただきたいものです。



上地区（上永里）

野々脇 太志さん



このコーナーは町民の皆さまから議会に対する事や町への要望を寄稿していただき、作成しています。議員が依頼に伺った際は、ご協力をお願い致します。



■表紙の写真について

表紙の写真は、自然観察クラブ前村孝子さんの作品です。「岡原から黒原山を望む」

編集後記

今回より新しい編集委員での発行となりました。行政用語は、なじみのない分、かたくなに言葉がたくさんありますが、できるだけ噛み砕いて分かりやすく伝えていきたいと思っております。

まず、「議会だより」を読んでいただくことから、町の事に興味を持っていただき、身近な議員と意見交換をしていただければ、もう立派な民主主義、住民自治への第一歩です。気軽に声をかけください。（久保 尚人）



編集・発行責任者

議長 徳永 正道

広報調査特別委員会

委員長 久保 尚人

副委員長 難波 文美

委員 溝口 峰男

委員 豊永 喜一

委員 小出 高明

委員 岩本 恭典

★お願い★「議会広報」の腕章をした議員が、写真撮影等で伺いして取材します。議会広報に載ることがあります。ご理解とご協力をお願いします。

